

7 建築現場-5 日本家屋(街場作業)



A 日本家屋の新築(街場 まちば)作業で、大工職が石綿非含有の石膏ボードを丸鋸(のこ)で切断しています。石綿含有の場合にも、同様に多量の粉じんが飛散したことが想像されます。



B 日本家屋の新築で、外壁の石綿含有サイディングを、サイディング工が丸鋸で切断しています。最近の作業で局所排気用のホースが見られます。



C 民家の新築作業で、左官工がセメントにモルタルを投入している作業で、投入時に粉じんが発生します。モルタルには、石綿含有製品もありました。



D 新築時の外壁の石綿含有サイディングを切断する作業です。1970年代は大工職がサイディングの切断をする事も多かったようです。



E 屋根工が、屋根用の石綿含有化粧板を切断する作業を行っています。多くの屋根材に、石綿が使用されていました。



F 屋根工が、石綿含有の波型スレートを切断する作業です。屋根材、壁材、床材等、建築現場には石綿含有製品が多く、このように現場で切断作業を行うことにより、現場で粉じんが発生します。



G 住宅の外壁サイディング張り工事。大工、屋根工、板金工なども施工します。屋外での現場合わせの切断ですから風向きによっては粉じんが遠くまで飛びます。粉じん発生量は非常に多いです。

7 建築現場-6 日本家屋(街場作業)



A 石綿含有の屋根材と立上り部(パラペット部)との継ぎ目(雨漏り)をシーリング補修しているところ。少し傷口を広げ(切り欠き、サンダー他)補修しますが、その際、石綿が飛散する可能性があります。



B 屋根の最上部(棟)の塗装が経年劣化で剥れてきた写真です。屋根材は彩色石綿スレート瓦。補修、取替え作業に伴い、屋根工がばく露する可能性があります。



C 大工工。床材(畳やフローリング等)の下地(=根太(ねだ)といいます。)をついているところ。大工の棟梁は住宅建築では最初から竣工まで取り仕切りますので、様々な状況で建材に含有している石綿に接する機会があります。



D 電気工による天井内で横に這いながらの作業で、写真の下に部屋があります。電気工、水道工、ダクト工、衛生設備工は天井内作業があり、写真はありますが天井に石綿吹きつけがある場合、壁をこすって、石綿にばく露することがあります。



E 大工が、エアの釘打ちでボードを留めています。エア作業は、床に堆積している石綿粉じんを再飛散させます。



F 表具工がクロスを剥がした後で、釘穴にパテを詰めこすっているところ。写真のように石膏ボードの場合は石綿飛散はありませんが、石綿含有ボードの場合は飛散もあります。



G 鉄骨工によるスポット溶接作業です。鉄骨工は溶接、建材の切断、保温材の巻き付けなど、様々な作業を行った場合があり、石綿に接する機会が多かった人もいました。



H 現場監督が、朝一番でホウキ清掃をしている所です。前日に堆積した各種の粉じんが、再飛散し、高濃度で吸入する可能性があります。

※掲載した写真はイメージ写真です